

「…」

(侑奈は○○からの視線が気になり、話す)

「ねえ、何さっきからチラチラ見てんの？集中できないんだけど…」

(なんで俺がこんな事しなきやいけないんだ、と○○が話すと、侑奈は呆れたように口にする)

「はあ…だから、さっき言つたでしょ？この資料まとめるのすごく大変なの。一学年分綴じないといけないんだし、ちゃんとページ通りにまとめないとダメだし。」

「とにかく、こんな量の資料を一人で作つてたら朝になっちゃうもん。だからあなたに手伝つてもらつてるの。」

「分かった？ならちゃんと手を動かして。」

(独り言を呟くように侑奈が言う)

「はあ…なんで広報委員なんてなっちゃったんだろ…」

(○○の様子を見て、気になったように口にする)

「ん? どうしたの? 指押さえて…って、血出てるじゃん! 紙で切っちゃったの? もう、ドジ…」

「持ってる絆創膏」枚あげるから、とりあえず水道で洗つてきて。」

(○○が水道で血を洗い、戻つてくると侑奈が冷静に話す)

「ちゃんと洗つてきた? ん、はい、絆創膏。これ貼つてまた作業の続きやるんだから。

」

(○○が絆創膏を貼るのに手間取つていると、呆れたように侑奈が口にする)

無題のテキスト

「…全然貼れてないじゃん…片手だから難しい、って：高校生にもなって『1人でこんなこともできなくてどうするの？全く…ほら、手出して。貼つてあげる。』

(○○への指に絆創膏を貼りながら、小さく咳く)

「…綺麗な指…」

(侑奈は我に返ると絵に描いたように焦り出して)

「へ？あっ、いや！なんでもない！なんでもないから…！…ほら！絆創膏貼ったから早く作業の続きをやるよ…！」

(○○がこちらを見ていることに気づいて、焦りが残っている侑奈が口にする)

「…なに…」

(○○に顔が赤いと指摘されるとまたも焦りながら侑奈は口にする)

「つ…！顔赤いとか、指摘するなバカ…！」

(○○に対して、焦りつつも少し強めに侑奈が言う)

「はああ…このこと、誰かに言つたら殴るからつ…」

(なんで？と○○に聞かれると声を荒らげるように侑奈が話す)

「当たり前でしょ！？周りから真面目って言われてる私が男の人の指なんかに見とれちやうなんて、どんなイメージになつちやうか…」

(侑奈は少し冷静になるがやはり焦りは残りながら)

「…だから、誰にも言わないで…こんなこと、ほんとはあなたに頼むのは不服だけど…」

「もうここまで見られちゃったんだから、あなたには隠さないわ…だから、私たちだけの秘密にしてて…」

(○○は対価を要求する。侑奈はまたも声を荒らげて○○に問い合わせる)

「はああ…！？対価…！？…」、高校生でそんなこと考えるなんて…いやしい…」

(○○がこのことを言うと□にすると、侑奈は弱気になる)

「あ、やあ…言わないでってばあ…」

(仕方なさそうに)

「つ…分かった…あなたの頼まれごとで私の世間体が守られるのなら…言うこと、聞いてあげる」

(侑奈は少し冷静になりながら○○に聞いて)

「で、何すればいいの?課題のお手伝い?テスト対策?もしかして、お金とか…」

(○○に隣に来るよう言わると、侑奈はキヨトンとして)

「え、隣にいけばいいの?まあいいけど…」

「はい、来たよ。それで?どうするの?」

(○○にソックスを脱ぐよう言わると少し怪訝そうに)

「えっ…?ソックス脱ぐの…?なんで…?」

「そりゃ気になるでしょ…!突然靴下脱ぐのを強制されたら…!」

「わ、分かったって…脱げばいいんでしょ…!」

(ソックスを脱ぐと少し恥ずかしそうに)

## 無題のテキスト

「…ほら、脱いだよ…これで満足？」

(○○に足を乗せるよう言わると少しビッククリしながら)

「ええ…！？あ、あなたの膝の上に乗せるの、脚…」

(足を乗せることを躊躇いながら)

「だって、一日中ずっと履いてたし…体育とかもあつたし…」

(弱気になり)

「い、嫌だってばあ：誰かに言わるのは、嫌、だけど…あなたは、いいの…？」  
「だから、その…汚い足を乗せられるの…」

(女子の足で興奮するという○○の発言に、顔をしかめながら)

「じょ、女子の足で興奮するとか…変態すぎる…」

(少し強く)

「分かっただってば…！…乗せればいいんでしょ乗せれば…！…  
「つ…！ほら、乗せたよ…！もういいでしょ…！？」

(急に足を持ち上げられて驚きながらも恥ずかしそうに)

「きやつ…！ちょ、ちょっと！急に脚を持ち上げないで…！スカートめくれちゃうから…！」

(強めに)

「スカートの中見たら絶対殴る…」

## 無題のテキスト

(○○がスマホを構えると怪訝そうに)

「な、なに、なんでスマホなんか構えて…」

(動画を撮られると強めに)

「動画撮ってる、って…！バカ！そんなことしないですよ！」

「動画撮影が趣味なのはいいけど、時と場合を考えなさいよ！」

(足に顔を近づけられてビクッとしながら)

「…やだつ…そんなに足を顔に近づけないで…」

(足を舐められて驚きが大きくなり)

「ひやああ…！？い、今何したの…！？なんか足の裏にあつたかいものが…」

「ひやつ…！…えつ…な、舐めてる…！？」

「きやあ…！…ば、バカ！バカバカ！き、汚いからあ…！」

(少し気持ちよくなりながらも嫌がつて)

「やあつ…やだあ…舐めないでえ…」

「い、言うこと、聞くつ、けどおつ…こ、これはつ、やだあ…」

(舐められた場所がくすぐつたく笑い出し)

「あつ、あははつ…ゆ、指の付け根は、くすぐつたいからあ…！きやはははつ！」

(敏感な場所を舐められてビクビクして、呼吸が荒くなりながら)

「ああつ…！…ゆ、指の間は、ダメええ…！」

無題のテキスト

「あつ…！んんつ…！や、やだつ…変な、感覚…」

「んんつ…体がつ、反応しちゃうつ…あつ…！」

「んつ…あつ…やらつ…らめえつ…んん…つ…！」

「あんつ…ああつ…！やあ…らめらめつ…！やらあつ…！」

(限界になり小さく叫ぶように)

「ひやあああつ…！」

(○○の顔面を蹴つてしまい我に返つて)

「あつ…！」

「ご、ごめん…顔、蹴つちゃつた…！」

(心配そうに)

「えっと…大丈夫…?」

(弁解するように)

「ち、違う…! わざとじやないから…!」

(必死に弁解していく)

「そ、そもそも! あなたが、私の足を、な、舐めてきたからでしょ…!」

(すぐに弱気になり)

「…あ、や、やだつ…このことまで言われたら、私もう学校来れなくなつちゃうからあ…ごめんってばあ…」

「わ、分かったから…他にも言うこと聞いてあげるから…だから言わないで…」

## 無題のテキスト

(キヨトンとしながら)

「…へ？お仕置き…？」